

丈夫な血管 長生きのもと

これから二年間、血管外科で扱う病気についてお話しします。「血管外科」と聞いて「ああ、あれね」と思い浮かぶ方はごく少数と思います。病院に来る手

血管外科とは

紙のあて名が「欠陥外科」になっていて妙に納得したり、「心臓血管外科」となっていてちよつとがっかりしたりします。

人間の身体の中は血管が張り巡らされています。心臓から押し出された血液が動脈を通っ

て、身体の隅々まで行き渡り、内臓や皮膚・筋肉の細胞に酸素や栄養を与え、不要なものを持ち帰って静脈に集まってきます。最後は上半身と下半身の静脈が合流して、心臓に戻ります。また、血

病気としては6通り

液の一部はリンパ液となってリンパ管を通り、心臓に近い場所の静脈に合流して戻って来ます。動脈と静脈を血管、それにリンパ管を加えると脈管といいますが、この管の機能の病気を扱うの

が血管外科です。血管に血液を送るポンプの役割を果たす心臓は扱っていません。手術に人工心肺を使うか使わないか、血管を切らずに内側からの操作だけで行う血管内治療をするかなどはさまざまで、心臓血管外科と血管外科の区別にはなりません。

簡単な見分け方を一つ。心臓自体の血管が狭くなったり詰まったりしたときにバイパス手術をします。これは心臓外科、心臓血管外科がします。足の血管もバイパス手術で治療しますが、ひざの

下の血管までバイパス手術をしているのが血管外科です。

病気としては管が「詰まる」と「広がる」がありますから、ざっと分けると動脈、静脈、リンパ管の三×二で六通りあります。それぞれについて簡単にお話ししていきます。患者さんの数が多い病気に紙面を割く予定です。

錦見 尚道先生
(にしきみ・なのみち)



名古屋生まれ。東海高校、名古屋大学医学部卒業。大学院終了後、米国留学。桐生厚生総合病院で研修中に血管外科を志望。名古屋第一赤十字病院血管外科部長。